

対象年度	H18	作成部課室	保健福祉部 健康推進課	関係部課室	保健福祉部 疾病・感染症対策室 薬務課
------	-----	-------	-------------	-------	---------------------

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系

政策名	生涯を健康に暮らすための健康づくりと病気の予防への取組	政策番号	1 - 1 - 5
-----	-----------------------------	------	-----------

政策概要 健康が日々の豊かな生活のみなもとであることから、一人ひとりが生涯にわたって質の高い生活を送れるよう、ふだんの健康づくりや病気の予防、個々人の状態に応じた健康の増進・維持を目指します。

施策番号	政策を構成する施策名	政策評価指標	達成度	社会経済情勢を示すデータの推移
	施策の概要			
1	健康づくりに関する意識の向上 一人ひとりが生きがいをもち、充実した人生を健やかに安心して暮らせるよう健康づくりに関する積極的な意識の啓発を図ります。	健康寿命(65歳時の平均自立期間)	...	基本健康診査受診率(%) H7:45.0 H12:49.8 H17:50.7 喫煙率(男性) H12:56.5% H17:50.0% 県内公共施設分煙実施率 H17:94.7% H18:96.6%
2	生活習慣病の早期発見と予防 生涯を通じて健康な生活を送れるよう、食習慣、運動習慣、喫煙、飲酒などの生活習慣が関わるがん、心臓病、高血圧、糖尿病などの生活習慣病について、早期発見や予防などの適切な対策を講じます。	健康寿命(65歳時の平均自立期間)	...	がん検診受診率(大腸がん) H12:20.7% H17:24.5% がん年齢調整死亡率(人口10万対) (男性)H12:208.6 H17:194.4 (女性)H12:102.6 H17:97.3 脳血管疾患年齢調整死亡率(同) (男性)H12:87.0 H17:71.7 (女性)H12:50.6 H17:39.4
3	歯と歯ぐきの健康づくり 80歳になっても20本以上の自分の歯を保つことを目標とした「みやぎ8020運動」の達成を図れるよう、一人ひとりの健康状態やライフスタイルに応じた歯と歯ぐきの健康づくりを目指します。			
4	結核等感染症の予防と正しい知識の普及 結核やインフルエンザ、0-157等の感染症の予防及びまん延の防止を図るとともに、感染症に対する正しい理解のための普及啓発を進めます。			
5	難病患者等の健康維持の支援 原因が不明で治療方法が確立されていない病気の患者や原爆被爆者がこれまでと同じように住み慣れた地域で生活でき、健康が維持できる支援体制づくりを目指します。			
6	地域リハビリテーションサービスの提供 年齢を重ねることにより体力が衰えた方や身体に障害を有する方が、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるように、その方に応じた各分野のリハビリテーションサービスが総合的に提供できる体制づくりを目指します。	健康寿命(65歳時の平均自立期間) 65歳以上人口の中で重度要介護者数(介護保険の要介護度4及び5の認定を受けている人の数)の占める割合	... A	【介護保険の要支援・要介護者数】 H18.1 75,437人 H19.1 78,249人 【リハビリテーション資源の状況】 ・リハ科を有する病院 H16.10 56病院 H17.10 59病院 ・回復期リハ病棟設置病院 H17.11 10病院 H19.1 12病院 ・病院に従事するリハ専門職 H16.10 571人 H17.10 631人
7	薬物乱用防止啓発活動の推進 麻薬、覚せい剤、シンナー等の薬物乱用防止のため、行政のみでなく、事業者、民間団体、県民等社会を構成する全ての主体が一体となり総合的な対策を講じていきます。			

政策評価指標の達成度:A(目標値を達成している)、B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している)
...(現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の詳細は各施策の「政策評価指標分析カード」を参照してください。

A - 1 施策群設定の妥当性 適切

【評価の根拠】 各施策が政策の目的に沿っているか、社会情勢から見て必要か、重複や矛盾がないか
・各施策は、社会経済情勢から見て必要性が高いと判断される。施策間に重複や矛盾はない。施策の設定は「適切」と判断する。

A - 2 政策評価指標群の妥当性 課題有

【評価の根拠】 各政策評価指標は施策の有効性を評価する上で適切か
・政策評価指標のうち「健康寿命」は指標としてふさわしいと考えられるが、現況値を算定できないことから、政策の有効性を評価するうえで課題があると判断する。その他の政策評価指標は適切な指標である。政策全体としては「課題有」と判断する。

A - 3 施策の有効性 概ね有効

施策番号	施策の有効性	【評価の根拠】 「政策評価指標の達成度」及び「社会経済情勢を示すデータの推移」から見て施策が有効か
1	概ね有効	・社会経済情勢を示すデータの推移からは、健康づくりに関する意識の向上への取組みが概ね順調に進んでいると判断される。施策は概ね目指す方向に推進していると考えられるので、施策は「概ね有効」と判断する。
2	概ね有効	・社会経済情勢を示すデータの推移からは、生活習慣病の早期発見と予防への取組みが概ね順調に進んでいると判断される。施策は概ね目指す方向に推進していると考えられるので、施策は「概ね有効」と判断する。
3		
4		
5		
6	有効	・評価指標の仮目標値が達成され、また、地域リハビリテーション推進にとって重要な役割が期待されている市町村における相談支援体制の整備や医療・福祉サービス施設、専門スタッフの増加も徐々に進んでいるため。
7		
政策全体	概ね有効	・施策の有効性では、3施策のうち1施策を「有効」、2施策を「概ね有効」と判断した。 目標値を達成した政策評価指標は1指標、現況値を把握できない政策指標が1指標あるものの、社会経済情勢を示すデータの推移からは、健康づくりと病気の予防に向けた取組みが進んできていることがうかがえる。 以上のことから、政策全体では「概ね有効」と判断する。

A 政策評価(総括) 概ね適切

【評価の根拠】	A-1, 2, 3を総括し政策を総合的に評価 ・社会経済情勢から政策を構成する施策の必要性は十分に認められる。社会経済情勢及び政策評価指標等の達成度から判断すると、成果の目的である健康づくりと病気の予防への取組みについては着実に進んでいると考えられることから、政策は「概ね適切」と判断する。
【課題】	この政策(各施策)における今後の課題等を記載 ・施策2生活習慣病の早期発見と予防については、国がメタボリックシンドロームの概念を導入した生活習慣病対策の推進を打ち出したことや社会的な関心も高いことから、今後も重点的に取組んでいく必要がある。